

会員発表紹介

地域における病院薬剤師のNST活動に向けた取り組み

鹿角組合総合病院 薬剤科
○田村 亘

【研究会の発足の目的】

輸液・栄養のエキスパートとしての専門薬剤師を目指す継続的な学習の場を提供するために研究会を発足させた。

【参加施設】

公立米内沢総合病院、北秋田市立阿仁病院、北秋中央病院、大館市立総合病院、大館市立扇田病院、秋田労災病院、鹿角組合総合病院（大館、北秋、鹿角地区の勤務薬剤師を対象）

【研究会の概要】

「発足」平成16年9月8日 第1回世話人会～

「名称」 「大館北秋鹿角臨床薬剤師栄養研究会」

（大館北秋鹿角 Nutrition Pharmacist Seminar）通称：NPS

「会則」 「1～12条」 名称、目的、事業、会員、総会、運営、会計、他

参加費：1回当たり1000円

「世話人会」：各病院より1名の世話人にてセミナーの内容を検討

【活動内容】

第1回平成16年9月8日 「輸液の基礎・水、電解質」

第2回平成16年12月2日 「栄養管理の考え方 アセスメント、プラン、ドリ」

第3回平成17年3月9日 「輸液栄養処方の理解に向けて～処方考察に必要な情報の整理～」

第4回平成17年6月15日 「知っておきたい経腸栄養療法のポイント」

第5回平成17年9月15日 「医療現場から寄せられる問題事例の分析①」

＝特に輸液調剤時における事例について＝

第6回平成17年12月14日 「医療現場から寄せられる問題事例の分析②」

＝配合変化や使用時安全性に関する事例等について＝

第7回平成18年3月8日

1. 第21回日本静脈経腸栄養学会報告

2. 施設発表「当院のNSTラウンドの現状報告」 大館市立総合病院

3. 《特別講義》病態別栄養管理の実際 『糖尿病の栄養管理について』

大館市立総合病院 第3内科 部長 八代 均 先生

第1回総会 平成18年6月4日

第8回 「輸液栄養処方の設計と考察 ～輸液栄養処方コンサルテーションシステム ADMICS II を利用した実践～」

第9回 平成18年10月4日 《特別講演》『栄養療法に関する輸液の基礎知識』

奥羽大学 医療薬理学 教授 東海林 徹 先生

【まとめ】

- ・大館北秋鹿角栄養研究会が2年前に発足した。
- ・会則があり、会員制、会費制としている。
- ・平成16年9月8日より現在まで、9回の輸液・臨床栄養分野のセミナーを開催している。
- ・栄養サポートチーム（NST）の一員として活躍できるよう、常に最新の情報と知識の習得を目指している。

【ホームページ】 <http://cgi38.plala.or.jp/kacco/NPS/> （パスワードが必要です）

第16回秋田県臨床薬学研究会 平成18年10月20日

当院における大腸癌に対するFOLFOLX施行症例の有害事象の検討

○小池善和¹⁾、武藤 理³⁾、安藤秀明²⁾、小野貴史²⁾、板垣裕子²⁾
 小林芳生²⁾、小貫 学²⁾、明石 建²⁾、田中雄一²⁾、花岡農夫²⁾
¹⁾中通総合病院 薬剤課、²⁾外科、³⁾三沢市立三沢病院

【目的】平成17年よりFOLFOLX療法は大腸癌の標準治療として日本の多くの施設でも施行されるようになった。一方、欧米の報告では、90%に発現するといわれる感覚神経障害は、治療中止の主たる要因となっている。今回、当院でのFOLFOLX療法の有害事象を検討してその安全性を欧米の成績と比較する。【対象】平成17年6月から平成18年8月までの、切除不能進行・再発大腸癌23例（男12女11）を対象とした。平均年齢67歳、化学療法の前治療あり15例、前治療なし8例であった。【方法】ポートを留置し、全例に治療前にステロイド・セロトニン受容体拮抗剤投与し、オキサリプラチン投与前後にカルシウム・マグネシウム製剤を併用投与した。【成績】総投与回数157回。投与回数の中央値7回。有害事象による投与延期48回。減量を要したのは4例。L-OHPのdose intensityは34.9mg/m²/w（82.1%）であった。有害事象は、Grade3以上の血液毒性はなく、Grade3以上の嘔吐と疲労を各1例で認めた。神経毒性はGrade0 34.8%、Grade1 43.5%、Grade2 21.7%、Grade3以上 0%であった。以上、米国添付文書、及びGamelinの報告と比較した（下記表参照）。【まとめ】当院でのFOLFOLXによる有害事象は欧米に比較して少なく、治療を安全に施行することができている。

①有害事象（末梢神経障害を除く）の比較

*米国添付文書より

Grade	初回治療例				前治療例			
	当院 (8例)		米国 (259例) *		当院 (15例)		米国 (150例) *	
	>1	>3	>1	>3	>1	>3	>1	>3
好中球減少	50%	—	81%	53%	53%	—	73%	44%
血小板減少	25%	—	71%	5%	—	—	64%	4%
ヘモグロビン減少	—	—	27%	3%	—	—	81%	2%
下痢	—	—	56%	12%	—	—	67%	11%
悪心	38%	—	71%	6%	33%	—	65%	11%
嘔吐	25%	13%	41%	4%	13%	—	40%	9%
食欲不振	75%	—	35%	2%	40%	—	29%	3%
口内炎	13%	—	38%	—	—	—	37%	3%
アレルギー	13%	—	12%	2%	—	—	—	—
疲労	25%	—	70%	7%	27%	7%	68%	7%
脱毛	13%	—	38%	—	7%	—	7%	—
手足の皮膚反応	—	—	7%	1%	7%	—	11%	—

②末梢神経障害（NCI-CTC）の比較

Grade	当院	Gamelinの報告	
	Ca/Mg (23例)	Ca/Mg (96例)	No Ca/Mg (65例)
Grade0	34.8 %	65 %	37 %
Grade1	43.5 %	13 %	18 %
Grade2	21.7 %	12 %	25 %
Grade3	0 %	8 %	20 %

第44回日本癌治療学会（平成18年10月18日～20日）